

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

第36回北方領土視察団」39名（内彦根市議会より4名参加）

会派 夢みらい3名 安藤博・夏川嘉一郎・矢吹安子

(2) 実施日：

平成30年10月23日（火）～10月26日（金）

【1. 調査の目的】

(1) 視察地・

北海道（根室市と札幌市・北海道庁）

(2) 現地の実情

北方領土返還運動、先駆地の実情把握、ロシアの動向

【2. 調査地選定理由】

(1) 選定理由・

北方領土の隣接地であり、返還運動の拠点

【3. 調査結果】

(1) 内容

1日目 10月23日（火）{滋賀県庁＝中標津空港＝根室市（市民交流会）}

根室市民との交流会では、食事を介しての友好的雰囲気の中、根室市の近況（少子高齢化の進捗状況等）や今後の運動の在り方

（世代交代に関する教育面の充実強化の必要性）等々が話題となった。・・・来年度の再開を誓って散会）

2日目 10月24日（水）{根室、納沙布岬（4島の架け橋）、各種の資料館へ}

返還祈願の炎が燃え続ける「4島の架け橋」「北方館」「北方領土資料館」「北方4島交流センター」等々を視察研修

3日目 10月25日（木）{根室、海上視察で国後島近くの境界線まで、空路－札幌}

小型観光船で「洋上視察－国後島近くまで」雲影とも見間違ふ島影らしきものが沖合かなたに確認できた。船上で「島を返せ」の大合唱が起こったことも付け加えたい。

4日目 10月26日（金）{札幌・北海道庁－空路（千歳－伊丹）－滋賀へ}

北海道庁において、北海道・滋賀県「議員合同会議」が開催された。

会議では、領土に関する若者教育強化の必要性や何事も国任せでなく、地方自治体がもっと声を上げるべきではないのか等々、積極的な意見が交わされた。双方の行動強化を約束して閉会

PM・札幌＝滋賀へ（全行動日程完了）

(2) 考察

北方領土返還要求運動滋賀県民会議の視察は、おおむね4日間とも温かく晴れ模様の日が続いた。

納沙布岬に一番近い歯舞群島の貝殻島の灯台が3,7 kmしか離れていない。その状況のなか洋上視察では、雲影とも見間違える島影らしきものが沖合はるかに確認できた。

わが国固有の領土である北方領土（歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島）は、終戦直後、突如ソ連に占領された。そして、戦後70年以上が経過した今日、いまだに北方四島が返還されないままである。

さて、北方領土問題に関しては、日本国民の返還願望の意志の強さこそが問題解決のキーワードになるものである。けれどわが国においては、返還に関わる人々と島民の高齢化、世代交代による無関心、北海道と本州との返還要求運動熱の落差拡大等々、いかにしてこの事態を改善し返還要求世論を築き上げていくことができるか、まさに今に生きる我々に課せられた課題だと思う。

運動に最も大切なことは、国レベルで解決される問題ではあるが、私たち一人ひとりが返還を自らの問題として強く認識することではないだろうか。さらに、課題解決するためには小中学生の歴史教育の徹底が必要だと思う。

この北方領土返還視察に参加した彦根市議会議員は、視察を単なる視察に終わらせず「返還運動の輪を広げる小さな核」となることを目指すべきと痛感し学びました。

以上